

今号の作業

シート裏パネルを取り付ける



今号では、「シート裏パネル」をメインフレームに取り付ける。このパーツは次号で提供するシートの内張りになるもので、開閉可能な構造になっている。注意点は、パーツを取り付けるヒンジを間違えないようにすること。シートヒンジにはAとBの2種類があるので、写真を参照しながら作業しよう。

今号のパーツ



- ①シート裏パネル×1
- ②シートヒンジA×1
- ③シートヒンジB×1
- ④ビス(Gタイプ)×3
(※1本は予備)
- ⑤ビス(Tタイプ)×3
(※1本は予備)

用意するもの

・メインフレーム(75号で組み立てたもの)

使用する道具

・+(プラス)ドライバー(1番)

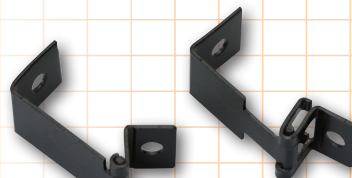
※モデルの設計上、パーツの形状が実車とは異なる場合があります。
※「組み立てガイド」で紹介しているパーツは実際に付属するパーツと一部仕様異なる場合があります。

STEP
1



シートヒンジA
取り付け位置

シートヒンジB
取り付け位置



シートヒンジA

シートヒンジB

②シートヒンジAと③シートヒンジBを用意し、写真のように並べて形状を確認する。シートヒンジBは可動軸がスライドする構造になっている。また、①シート裏パネルも用意し、ヒンジの取り付け位置を確認しておこう。

STEP
3



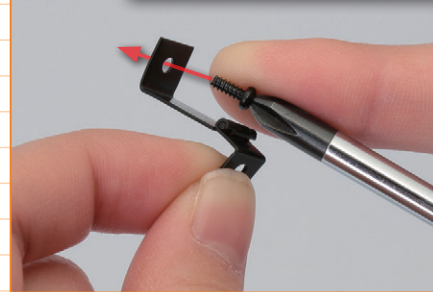
②でGタイプのビスを通したシートヒンジAを、シート裏パネルの取り付け位置にセットする(取り付け位置は①参照)。セットする向きは、ヒンジのアーム部がパーツの外側にくるようにする。ビスをねじ込んでシート裏パネルに固定しよう。

STEP
2



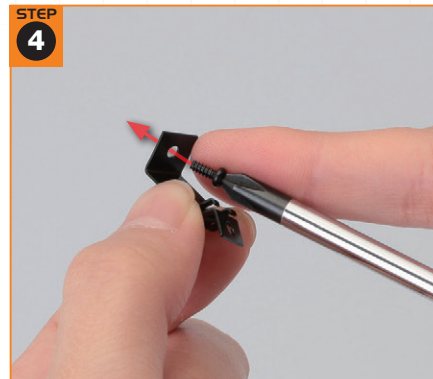
ビス(Gタイプ)

ビス(Tタイプ)



まず、使用するビスの形状を、上写真を参照して確認しよう。ビスのアタマが丸い方が④ビス(Gタイプ)、アタマが平らな方が⑤ビス(Tタイプ)だ。次に、シートヒンジAを写真のように持ち、長いアームのビス穴へGタイプのビスを写真の方向から差し込んでおく。ビスを+(プラス)ドライバーの先端にセットした状態で作業するといいだろう。

STEP
4



シートヒンジBを写真のように持ち、長いアームのビス穴へGタイプのビスを写真の方向から差し込んでおく。②と同じ要領で作業しよう。



④でGタイプのビスを通したシートヒンジBを、シート裏パネルの取り付け位置にセットする(取り付け位置は①参照)。セットする向きは、ヒンジA同様、ヒンジのアーム部がパーツの外側にくるようにする。ビスをねじ込んでシート裏パネルに固定しよう。



シートヒンジAとBをシート裏パネルに固定したら、ヒンジ部分を写真のような「クランク状」にしておく。



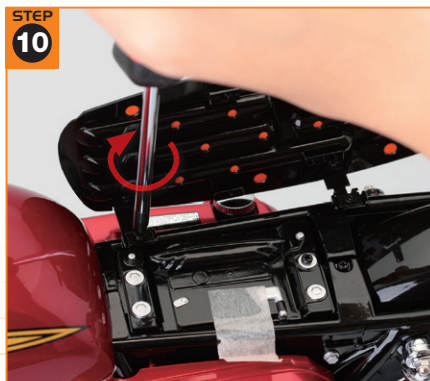
75号で組み立てたメインフレームを用意し、シート裏パネルを写真の位置にセットし、メインフレームのビス穴とヒンジのビス穴を合わせておく。



+ (プラス) ドライバーを使って、シートヒンジBのビス穴にTタイプのビスを差し込み、ビスの先端をメインフレームのビス穴にセットする。



ドライバーを真っすぐに立て、Tタイプのビスをねじ込んでシートヒンジBをメインフレームに取り付ける。なお、このビスは力いっぱい締め込む必要はなく、多少ガタガタした状態でも問題はない。



次にシートヒンジAのビス穴にも⑧、⑨と同じ要領でTタイプのビスを差し込み、メインフレームにシートヒンジAを取り付ける。こちらのビスは、シートヒンジBと比べてガタが少なくなるように締めよう。



シートヒンジAとBをメインフレームに取り付けたら、シート裏パネルが開閉するか確認しよう。開閉時のガタつきが大きい場合は、⑨、⑩でヒンジA、Bにねじ込んだTタイプのビスを、少しだけ締め込んで微調整する。



これで今回の作業は完了だ。シート裏パネルの裏面に点在する赤色の「●」は、実車にも設けられているエア抜き穴で、モデルは初期型に採用された「赤スポ」を再現したものだ。次号ではよいよシートを取り付けるので、組み立てたモデルは大切に保管しておこう。